

## 9月ベラルーシの被災地訪問

### 救援カンパと皆さんの思いを届けます！

9月8日～16日、今年もベラルーシの被災地へ6名のメンバーで訪問し、皆さんから託された救援カンパ、子供達の絵、メッセージなどを届けてきます。今回の訪問では、まもなく事故から20年を迎える現地の実情、人々の抱える生活・健康・こころの問題、放射能汚染の現状、人々がそれらとどう向き合っているのか…など、見聞きしてきたいと思います。また、これまでの私達の支援・交流活動について、これからの取組みについても意見交換をしてきたいと思っています（昨年から引き続き、「救援物資の郵送」に代わる「現地調達」の試み、新たに始めた「子ども元気キャンペーン」について報告して意見を聞くなど）。

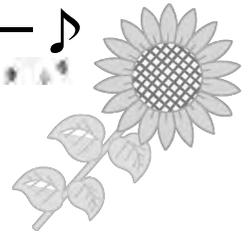
「救援関西」では、来年の「チェルノブイリ20周年」には、現地からチェルノブイリ・ヒバクシャの代表の方々（2名予定）をお招きして、関西各地を中心に、様々な交流の場を持ちたいと考えています。その企画準備のための話し合い—招待する方の人選、時期、交流趣旨の説明、報告準備の依頼など—も、今回の訪問団の大切な仕事のひとつです。このような交流を通じて、今年、私達が取組んできた「被爆60周年からチェルノブイリ20年へ」というテーマをどう伝え、チェルノブイリのヒバクシャとも思いを共有し、「ヒバク被害のない世界に向かって」とともに進んでゆけるのか、模索したいと思います。

今回の訪問メンバーは、「若者」（約？）4名を含む6名です。これからの「救援関西」を担ってくれるであろう若い世代の活躍にも期待したいと思います。事故から20年を迎えようとしている現地でも、事故当時生まれたばかりの子供達が成人し、新たに社会を担う時期に来ています。今後の若い世代どうしの交流も大切にしてほしいと思います。皆さんも応援して下さい！

救援カンパ、派遣カンパ、ともにご協力お願い致します。

（事務局：振津 かつみ）

# ♪訪問メンバーの意気込みー♪



## 初訪問な人たち

### ベラルーシの現状を知り、できることを見出す訪問に

長辻 <sup>みゆき</sup> 幸

今回、初めてベラルーシ訪問団に加わることになりました。初の現地訪問ということで、今から少し緊張気味です…。私はこの訪問で次の二点を目標にしたいと思っています。まず一点目は、ベラルーシの現在の状況を自分の目で確かめること。そしてもう一点は、自分に何ができるか、さらにこれからの活動や交流にどう活かしてゆくのかを考えることです。

これまで機会ある毎に、救援関西の他のメンバーが現地を訪問した様子を写真も交えながら報告してもらいました。迫ってくるものは確かにあるのですが、どこか現実として受け止められていないように感じたこともあります。現地がどのような状況になっているのかを実際に見ることで、ベラルーシの人々をより身近に感じる事が可能になるのではないかと考えています。それは日本にいるだけでは見えてこない問題、さらには支援にも敏感になれると思うのです。

私は救援関西を通じて少ないながらも様々な活動に参加してきました。根底にあるのは非核の想いなのですが、具体性に欠けすぎていることがしばしばあります。そのためか、自分にできることも見落としている気が

します。今回の訪問で、私たちと「心の交流」を続けてきたベラルーシの



人々に会い、意見も交わして非核への想いを新たにしたいと思います。その上で、たとえどんなに小さなことであっても、自分にこれから先できること、してゆきたいことを見つけます。チェルノブイリの問題だけでなく、核に関するあらゆる問題についてどう向き合ってゆくか。私の活動の姿勢にも方向性を定めてくれる訪問になると考えています。

最後になりましたが、今年は広島・長崎への原爆投下から60年目を迎え、来年はチェルノブイリ原発事故から20年目を迎えます。このような年にベラルーシへ行くことは、ある意味プレッシャーでもあるのですが、嬉しく思います。現地では全く手をつけたことのないロシア語で詩の朗読にも挑戦してみようと、長澤さんとともに計画中です。非核の想いでつながるということでよい心の交流となることを信じています。



## この目で見える放射能の正体とは・・・

長沢 智行

「チェルノブイリ原発事故の被災地をこの目で見ておきたい。」

これが、ベラルーシへ行く私の目的だ。



19年経った今も、人を寄せ付けない汚染された地域、つまり放射能が支配する恐怖がそこには実存す

る。そこは、あのレイチェル・カーソンのいう生態系が破壊された『沈黙の春』の世界なのだろうか。だとすれば、人の暮らしはどうなっているのか。

核廃絶を願う、一個人としてそれは大変興味深い世界であるが、同時に非常に怖い。だからこそ、その「怖さ」を越え、それを共有しなければ繰り返されるこの危惧に対し、よりたくさんの人にチェルノブイリ原発事故を伝えられる人間になればと思いベラルーシの被災地へ行くことを決意した。

では、現地で具体的に何をするのか。自分のチェルノブイリ原発事故の認識を改め、理解を深める作業をする。

今、私が持っているチェルノブイリのイメージはジャーナリズムを頼りに形成されているが、それに体験を融合させれば、より具体的な理解が得られるのではないかと狙っている。

私がジャーナリズムから得たイメージを簡単に出す。例えば、写真。石棺になった4号炉、廃墟と化した村や、甲状腺ガンを病んだ子供たち、汚染地でひっそりと暮らす老人などがよく目にする光景だ。そして、今までに見てきたグラフは「甲状腺ガン」や「奇形児」、「悪性腫瘍」などの増加を示していた。数字は事故処理にかりだされたロシアの従事者は86万人、うち5万5千人は既に死亡し、ウクライナ国内（人口5千万）でも国内被爆者総数は342.7万人にのぼり、うち86.9%の作業員は病気にかかっているなどのデータだ。文字は心も表現していた。友達や肉親の死、障害を持って生まれた弟や妹、捨てた故郷の村への憧れ、将来への不安など。

「生き地獄」。

これが、私のチェルノブイリ原発事故のイメージといえるだろう。それを現場でできる範囲で確認し、改め、より理解するのだ。

帰国すれば、現地で学んだことを伝え、議論し、共有する実践をしたく思う。



## ♪二回目の訪問



# ベラルーシと日本の間の「非核」という名の橋のために

...

森下 なおや

チェルノブイリに関わり始めてもうすぐ丸7年。初めてチェルノブイリを目の当たりにしたのは、今から6年前の1999年、高校2年生の夏でした。軽い気持ちでウクライナへ行き、重い気持ちで日本に帰ってきたのです。日本で悠々と暮らす僕にはありえない非日常を感じ、ものすごい衝撃を受けました。「このきれいな土地が放射線で汚染されている。地球上にこんなところがあっていいわけがない！」という想いでいっぱいでした。今、チェルノブイリ、そして核の問題に関わっているのもこの時の現地訪問があったからだと思っています。この度、二回目のベラルーシ訪問に行かせてもらうことになり、「ベラルーシを第二の故郷にしようプロジェクト」が着々と進行しています(笑)。初めてベラルーシを訪れたのは、今から3年前の2002年でした。この時、僕は現在の状況を直接目で見て理解すること。その上で、今まで関わり続けてきた想いの整理。これから先、自分に何ができるのか。そして、向こうで友達を作ること。これが目標でした。この訪問でベラルーシという国、そして人々と、この目、この肌で直接触れることでベラルーシを身近に感じることができ、さらに非核の想いが強くなりました。「この汚染された場所にこんなに苦しんでいる人がいる。傷ついている子供たちがいる。どうしてこうも

日本と違うんだ！放射線がなければ、苦しむこともない子供たち。



こんな状況を許していいわけがない！」今はこんな想いでいっぱいです。

今回、二回目のベラルーシ訪問ということで、この想いをさらにいっぱいにしてきたいと思います。そして、自分にできることを模索し、あふれんばかりのこの想いや実際に見聞きしたことを、できる限り声にだしていきたいと思います。

今年は、ビキニ実験から50年、広島・長崎から60年、そしてチェルノブイリから20年と続く年です。半世紀が経ち、現代社会は核を知らない世代に移行していく中で、今でも苦しんでいる人がいるこの事実を忘れてはいけなし、過去のものにしてはならないと思っています。だからこそ、この一つの節目であるこの時期に、ベラルーシに行けることを嬉しく思い、ベラルーシと日本の間の「非核」という橋の一つになれたらと思います。そして、発信していくことで少しでも多くの人に核の恐ろしさを知ってもらいたいと思います。

## 現地調達 今年はどうする???

時はあっと言う間に過ぎてゆきます。昨年のベラルーシ訪問がさまざまに思い出される中で、今年の現地訪問の準備相談をしています。もう1年が経とうとしているのですね。(☆☆しばし感慨に耽る たなか)

さて(いつまでも☆☆☆してられない)救援物資の郵送が思うにまかせぬ現状で、このところ衣類や文房具は現地に届いていません。特に恵まれない家庭の子ども達には援助が必要です。現地で買うとピッタリほしいものが手に入るというメリットがありますので、昨年試みた現地調達を今年もしてみんと提案。

「今年も現地で買い物するんでしょう？ 不都合がなければ、今後続けていくというはずだったのよね。去年は上手くいったと思いますが。」

「そう 今年もしないと。・・・」

「・・・はなんですか？」

「救援カンパが少し足りないみたいで・・・」

という訳でこの文を書いています。‘救援関西’の歩くカンパ箱のスタッフに出会った人は幸運を喜び、その場でカンパを！ 不運にも出会えなかった人は暑い中ご苦労さまですが、喜ぶ子どもたちの顔を思い描きながら郵便局にお出かけになって、振込みをよろしくお願いいたします。低頭。

(たなか)

### ベラルーシ訪問の日程

9月5日：関空発、ウイーン着

6-7日：IAEAの国際会議

9月8日：ミンスクへ（空港で通訳の松川さんと合流）

9日：マリノフカ（移住者の住む街）で、家庭訪問、話し合い、救援物資の買い出し

10日：マリノフカ交流、ミンスク市内見学、救援バザー用品の買い出し

11日：朝、クラスノポーリエへ向けて車で移動（ペーラさんに出迎えをお願い）

途中でベリニチの寄宿学校訪問一時刻クラスノポーリエ着h

12-13日：クラスノポーリエで家庭訪問、学校、幼稚園、子供保護施設、博物館、病院など訪問、市内見学、湖畔でのピクニックなど、汚染ゾーンの見学はオプション

14日：チェリコフへ移動、幼稚園、孤児院の見学、市場で救援物資の購入など

15日：ミンスクへ向け移動、夕刻ミンスク着：ミンスク泊（ホテル）

16日：ミンスク発ーウイーンで乗り継ぎ、関空へ

## 国際原子力機関（IAEA）主催の国際会議にも参加

森下、長澤智行、振津は、ベラルーシ訪問に先立って、ウィーンで開催される下記の国際会議に出席します。IAEA は事故から 5 年、10 年にも同様の国際会議を開催し「チェルノブイリ事故による放射能健康影響は小児甲状腺癌のみ」との「国際的コンセンサス」を造り上げようとしてきました。WHO や UNEP も加わった「チェルノブイリ・フォーラム」として、この「事故 20 年」を総括し、どのような議論がされ、彼らなりにどのような「将来の方向性」を見いだそうとしているのか…。事故影響の過小評価を批判し、被害者の切り捨てを許さない、「チェルノブイリを繰り返させない」ためにも、会議に参加して情報を得てきたいと思います。

### 国際会議「チェルノブイリ：未来に向けた回顧」 － 事故の影響と将来についての国連の共通認識に向けて 2005 年 9 月 6-7 日、ウィーン、オーストリア

主催：国際原子力機関（IAEA）－「チェルノブイリ・フォーラム」を代表して  
「チェルノブイリ・フォーラム」構成団体：WHO,FAO,UNDP,UNEP,UN-OCHA,UNSCEAR,世界銀行,ベラルーシ・ロシア・ウクライナ共和国政府

#### プログラム

9 月 6 日

#### 開会の言葉：

M.エルバラダイ（IAEA 議長）、A.ドラツヒン（ベラルーシ副大統領）、S.ショイグ（ロシア緊急事態省大臣）、T.アモソーバ（ウクライナ、チェルノブイリ事故影響からの人民保護問題と緊急事態省、第一大臣）、T.タニグチ（核安全と安全保障部副部長、IAEA）、M.ダンゾン（WHO、欧州地域事務局代表）、K.ミゼイ（UNDP 議長補佐官、UNDP 欧州・CIS 地域会議議長）

#### チェルノブイリ事故の環境と健康影響：

はじめに：B.ベネット／放射線影響研究所

チェルノブイリ事故の環境影響とその回復／L.アンスポウ／米国

チェルノブイリ事故の癌影響／E.カーディス／フランス

チェルノブイリ事故の非癌健康影響と特別ヘルスケア・プログラム／F.ミットラー／米国

#### パネル・ディスカッション：チェルノブイリ事故の環境と健康影響

司会：B.ベネット／放射線影響研究所

パネリスト：A.J.ゴンザレス／アルゼンチン、Yu. イズラエル／ロシア、Ya. ケニクスバーグ／ベラルーシ、F.ミットラー／米国、M.レパチョリ／WHO、J.リパサード／フランス

9 月 7 日

#### チェルノブイリ—未来に向けて

はじめに：K.ミゼイ／UNDP

科学の意義付け：広報の必要性に応じて：I.アバルキーナ／ICRIN コーディネータ

開発促進のためのチェルノブイリ政策の拡大：J.オシアチンスキー／UNDP 世界銀行専門官

世界銀行からの発言：発言者未定

#### 自己信頼による復興：チェルノブイリ地域における地域社会主体の発展

O.レシュチェンコ／UNDP チェルノブイリ問題コーディネータ、L.ダビデンコ／ウクライナ地域若者リーダー、D.ペトルシェンコ／ボロディアンカ地区区長、キエフ州、ウクライナ、Z.トラフィムチク／CORE 計画コーディネータ、ベラルーシ

#### 議論

## 広島・長崎の原爆の日に寄せて チェルノブイリ・ヒバクシャからのメッセージ

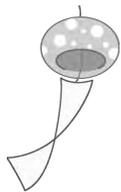
日本の友人の皆さま！「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」の皆さま！

本日、広島「原爆の日」に際し、私達、ベラルーシのチェルノブイリ原発事故被災者は、日本人々とともにあります。私達は、このすばらしい私達の惑星の大地のいかなる場所であれ、決してこのようなことが繰り返されることのないように強く願っております。私達は、ともに肩を並べ、手をたずさえて、この恐ろしい核の脅威に立ち向かわねばなりません。そして、私達の子供達とも一緒に。とりわけ、原爆投下という出来事についての全ての真実を伝えて行かなければなりません。このことは、私達の親としての、また人間としての責務です。

そして、間もなく長崎の「原爆の日」がやってきます。広島と長崎の二つの都市は、悲しみのシンボルであり、全人類の命のシンボルでもあります。この二つの都市は、国や宗教の異なる人々に友情を与えてくれます。放射能に国境はありません。そして人々は、国境を越えて、友人である国の人々の悲劇に心を痛み、同情するのです。このことを、全ての人々が、それぞれの胸に刻まねばなりません。

私達は、日本人々の平和と繁栄と幸せを願っております。ベラルーシの子供達に、長年にわたる支援をして下さり、ほんとうにありがとうございます。全ての皆さまのご健康を願っております。ベラルーシの全てのヒバクシャから、心からの愛情と感謝の気持ちを込めて。

2005年8月6日



ミンスク

マリノフカ「移住者の会」代表

ジャンナ・フィロメンコ

(訳：振津かつみ)

## カンパ・会費の納入ありがとうございました！！

2005. 7.18～8.17

小山師ノ一 福井真理 大田美智子 村上鐘清 村上鐘清 佐藤ちい子 春木博美 大和田美樹  
岡村達郎 泉迪子 小副川久代 佐久間慶子 井間稔之 藤田達 馬庭京子 小笠原千恵  
寺西加代子 植田成人 金山次代 徳岡宏一郎 齊藤美智子 岩崎幸二 日野徹 虎尾義弘  
向井千晃 横山清美 高田佳津子 愉昌雄 富田洋香 齊藤政仁子 福岡いさ子 今津歌子  
吉崎彰一 田村和子 山科和子 田中章子 澤嘉子 中山繁子 稲田みどり 山崎昌子  
滝沢厚子 松永俊子 さよならウラン連絡会

(順不同・敬称略、前回記入漏れの方も含む)

♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣お知らせ♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇

♣♡♠◇♣♡

### ♣8月28日（日）第39回知るシリーズ／討論：アスベスト問題にせまる

時間：午後2時～5時

場所：ヒューマインド（JR芦原橋、徒歩10分）

主催：地球救出アクション97 問合せ：0723-32-9279（いなおか）

### ♡9月18日（日）第21回戦争はいやや！核なんかいらへん！フェスティバル

時間：午前10時～午後3時

場所：長居公園内南児童公園

主催：反核フェスティバル実行委員会

「救援関西」もケーキ／コーヒー／ベ  
ラルーシグッズのお店を出します！  
詩の朗読と創作バレエの舞台出演  
もします！！ ぜひ来てね♪

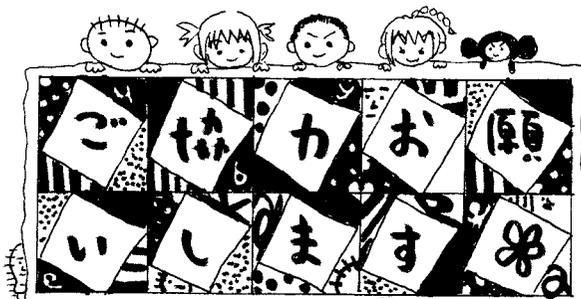
### ♠10月2日（日）ベラルーシ訪問報告会

時間：13:30～

場所：宝塚市立男女共同参画センター

主催：原発の危険性を考える宝塚の会 問合せ 0797-74-6091（たなか）

9月 ベラルーシ現地訪問団派遣  
救援カンパ、代表派遣カンパにご協力下さい！



ご協力よろしく  
お願いします♪

ニュース発行：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

〒546-0031 大阪市東住吉区田辺 1-9-12 山科方

郵便振替：00910-2-32752